

higashi
nariku

金属等加工

発想力を広げ 試作品づくりを極める

※注【技能士】
働くうえで必要とされる技能の習得レ
ベルを評価する国家検定制度「技能検
定」があり、それに合格した人を「技能
士」と呼ぶ。金属加工など128職種ある。



数こそ少ないが、試作品づくりは容易ではない。その部品を使って実際に製品を作動させるため、性能も精度も本物と同じレベルのものが求められるからだ。

「株式会社ワイビー」は、自動車や家電などの製品や部品の試作品を製造している「試作の老舗」だ。工場内では技能士（※注）の資格をもつスタッフが、一人で1つの品物を製造設計から完成まで一貫して手がけている。その理由をたずねると「1から担当することによって自由な発想で工程プランを作ることができ、作業に責任感も生まれる」と社長の吉田 清敏さんが教えてくれる。

同社では、試作品づくりも金型づくりも、その方法は、機械加工でも手加工でも可能。両方の加工技術を含ませ持つのが強みだ。複雑な金型であれば、加工機械を使って高精度に仕上げることができ、一方、シンプルなお金型であれば、鉄の塊から工具を使って手で削り出すこともでき、機械加工に比べて短時間で仕上げられる。微調整もできるのが利点だ。オーダーに合わせて、機械加工と手作業を柔軟に使い分けている。そして、ベテランのスタッフとなれば、個々の加工作業に、経験から生まれる発想力を十分に生かして対応。叩き、しぼり、のぼす、曲げるなどの加工を職人の手技でこなし、美しく仕上げることもできる。

「仕上げの良さも技術のうち」と吉田さんは、スタッフの技量に胸を張る。一品一様の試作品づくりに加工の技が凝縮されている。

1. 3次元で対応できるレーザー機械を使って試作品をカットする。品物を固定する治具(じぐ)という装置も平づくりだ。
2. 金型を削(けず)る加工機械の設定。若いスタッフがコンピューターの設定方法を先輩から引き継ぐ。
3. 手前が150tの圧力をかけて型押しした試作品の一部。奥がその金型。
4. 金型を作らず、金属を折り曲げ、溶接して試作品を作る場合もある。
5. 鉄のパイプシートをつなげるため、間に真鍮(しんちゆう)を渡し、接合加工。

試作品製造・精密板金レーザー加工
株式会社ワイビー
 大阪府東区中本 5-27-13
 06-6971-7741
<http://www.k-yb.co.jp/>